



平成24年10月
国土交通省
東北地方整備局
仙台河川国道事務所
仙台海岸出張所
岩沼市阿武隈一丁目2-16
TEL 0223-25-5431

現場からの声

震災当時、私は同じ町内で海岸工事を行っておりました。地震発生時に津波は来るだろうと予想はしましたが、ここまで被災を受けるとは想像もしていませんでした。

海から3km離れた自宅まで波が押し寄せ、2.5km離れていた実家は全壊、海岸堤防沿いにあった現場事務所は跡形もなくなくなっていました。命があったことが幸いだったと思うしかありませんでした。

その後の復旧活動から今回の工事まで地元建設会社としては、今まで生活して



きたこの山元町をなんとか復旧復興させたいという思いで作業してきました。

笠野工区北部第2復旧工事 現場代理人 野村弘毅

山元町の復興のために



今回の工事にあたり、ある程度想定はしていましたが、重機、作業員、運搬車両が予想以上に逼迫している状況でした。特に運搬車両（ダンプトラック）は不足していて、車輛の確保に苦労しています。

また、今まで何の問題もなく使用することのできた建設資材も、復旧工事が集中する中、調達に時間を要している状況です。

しばらくの間はこのような状態が続くと思われませんが、徐々に整備されていく地元の風景や現場を見ているうちに、負けてなるものかという思いがこみ上げてくると共に、地元の整備に深く関わることのできるこの仕事は誇りに思います。

これから寒い時期に入り工事も終盤に差し掛かりますが、安全作業で事故なく無事に工事を完了させていきたいと思っています。

仙台湾南部海岸堤防復旧工事は、仙台市の七北田川以南から山元町まで約30kmで堤防復旧工事を進めています。今回紹介した笠野工区は、以前は山元海岸の中でも砂浜が広く、海浜性植物の繁殖が見られ、ウミガメの産卵もあった場所です。一日も早く地域の住民の皆様の暮らしを守る堤防を完成し、美しい砂浜を取り戻せるよう、職員・施工者、皆で一丸となって工事を推進していきます。

連載 砂浜に生息する生き物 - その1 ハマボウフウ

仙台湾南部海岸には、様々な植物や昆虫、鳥たちが、多数生息しています。そのため、今回の堤防復旧工事にあたって、これらの海浜性植物を保護し、環境に配慮した施工計画を実施しています。仙台湾南部海岸に生息する生き物たちを毎号紹介していきます。



セリ科 日本全土の海岸の砂丘地に自生、花期は6月～7月。

中国の漢方薬に“防風（ぼうふう）”と呼ばれるセリ科の種類があります。

日本の浜防風とは多少違いますが、薬としては”防風”の代用になるらしく、日本全国の砂浜に自生していることから、浜防風の名前が付いたと言われていいいます。